



2022年3月期 第2四半期決算説明会

1. 第2四半期決算の概要(連結)
2. 通期の業績見通し
3. 当社の経営戦略

2021年11月10日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1

第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

	前第2四半期 累計 (2020/9)	当第2四半期 累計(2021/9)					対前年同期 増減率(%)
		期初予想	8月4日 修正予想	9月14日 修正予想	実績		
売上高	87,240	88,500	96,000	100,000	102,343		17.3
国内売上高	56,248	-	-	-	65,164		15.9
海外売上高	30,992	-	-	-	37,178		20.0
売上総利益 (売上総利益率)	44,357 50.8%	-	-	-	54,487 53.2%		22.8
営業利益 (営業利益率)	8,758 10.0%	6,500 7.3%	11,000 11.5%	15,000 15.0%	17,414 17.0%		98.8
経常利益	8,215	6,500	11,000	15,000	17,990		119.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,826	4,500	7,500	10,000	12,294		111.0

(単位: 百万円、単位未満切捨て)

為替影響除く: +16%

自社品 売上比率: 2020/9 69.0% → 2021/9 72.2%

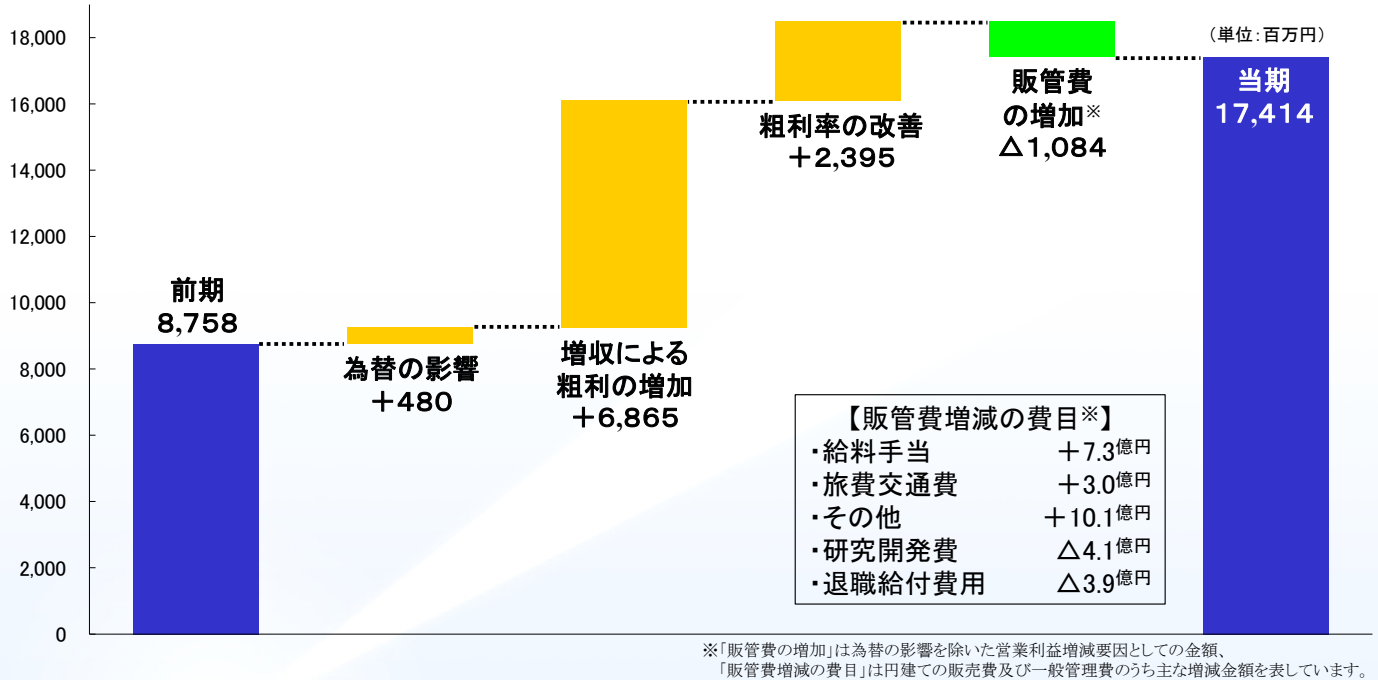
販管費: 355億円 → 370億円
販管費率: 40.8% → 36.2%

為替差損益 差損825百万円 → 差益296百万円

平均レート	(2020/9)	(2021/9)
1米ドル	106.9円	109.5円
1ユーロ	121.3円	131.1円

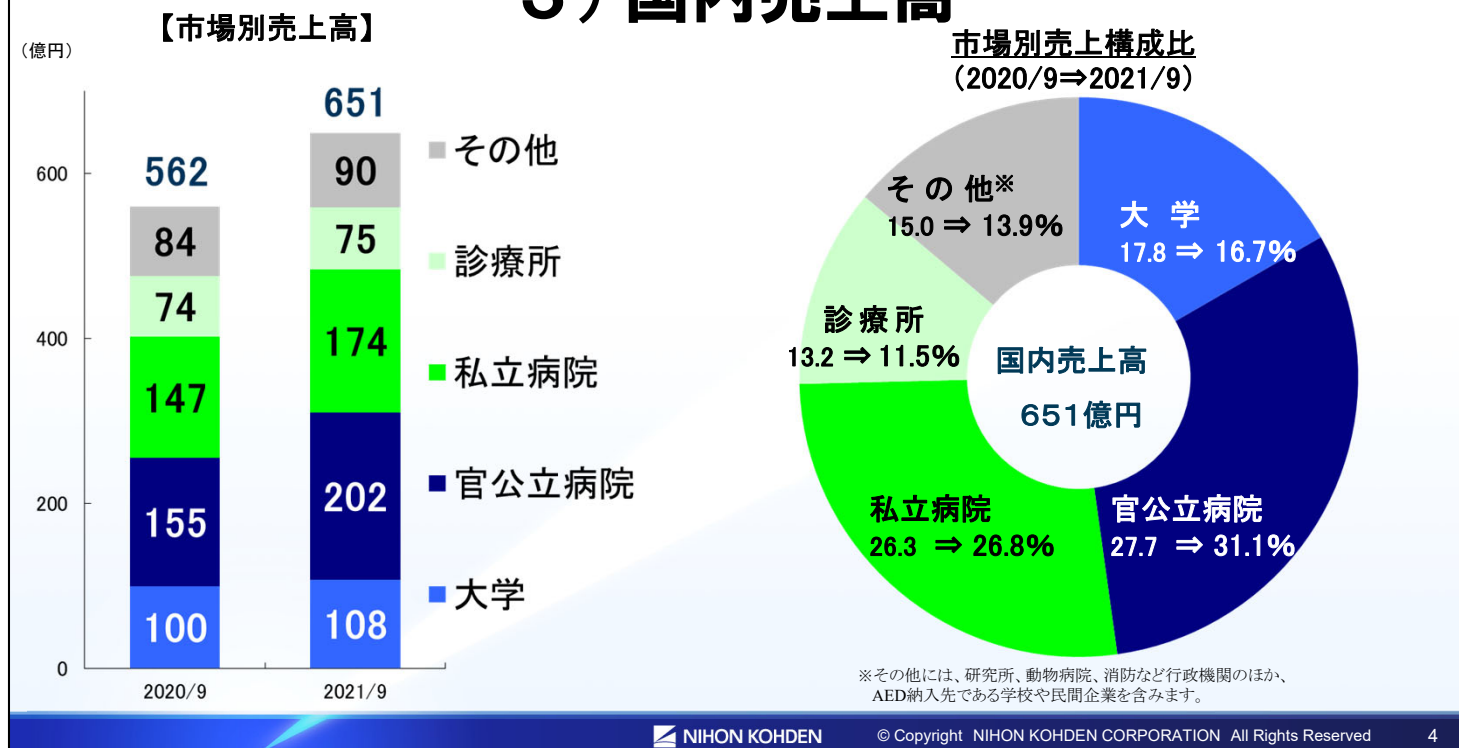
- 売上高は、17.3%増の1,023億円となりました。
国内売上高は、15.9%増の651億円、海外売上高は、20%増の371億円、
現地通貨ベースでは、16%の増加となりました。
- 変異株の感染者が急増し、生体情報モニタ等の需要が堅調だったため、
国内、海外ともに、社内計画を上回って推移しました。
- 粗利率は、自社品比率が上昇したことから、
2.4%ポイント増の53.2%となりました。
- 営業利益は、増収効果と粗利率の改善により、
98.8%増の174億円となりました。
- 経常利益は119%増の179億円、
純利益は111%増の122億円となりました。
- 売上、利益ともに過去最高を更新することができました。

2) 営業利益増減の要因分析



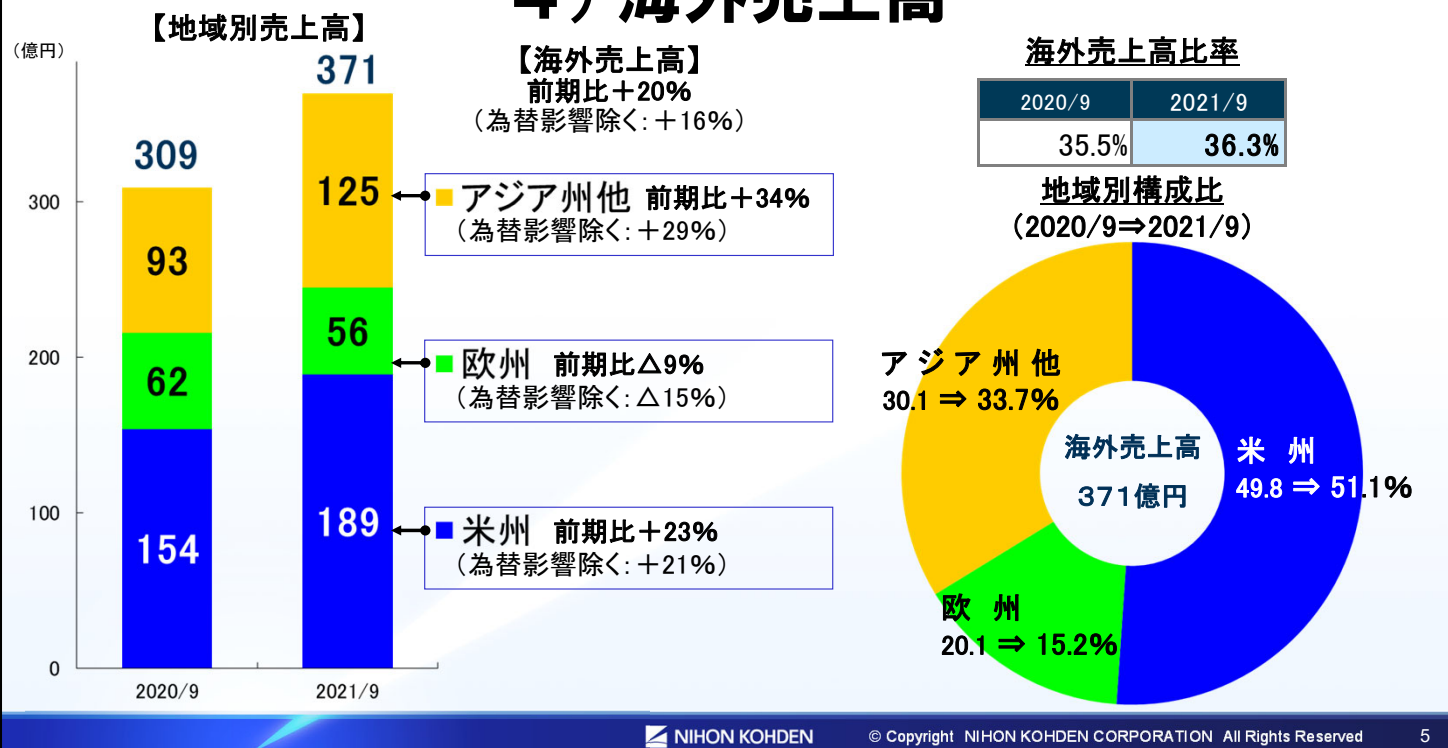
- 営業利益が、前期の87億円から174億円に増加した要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、4億円のプラス要因となりました。
- 増収による粗利の増加は、68億円となりました。
- 粗利率の改善につきましては、国内では売上構成が良化したことに加え、自社品比率の高い海外が好調だったことから、23億円のプラス要因となりました。
- 販管費につきましては、営業活動の回復や売上変動費の増加により、10億円のマイナス要因となりました。

3) 国内売上高



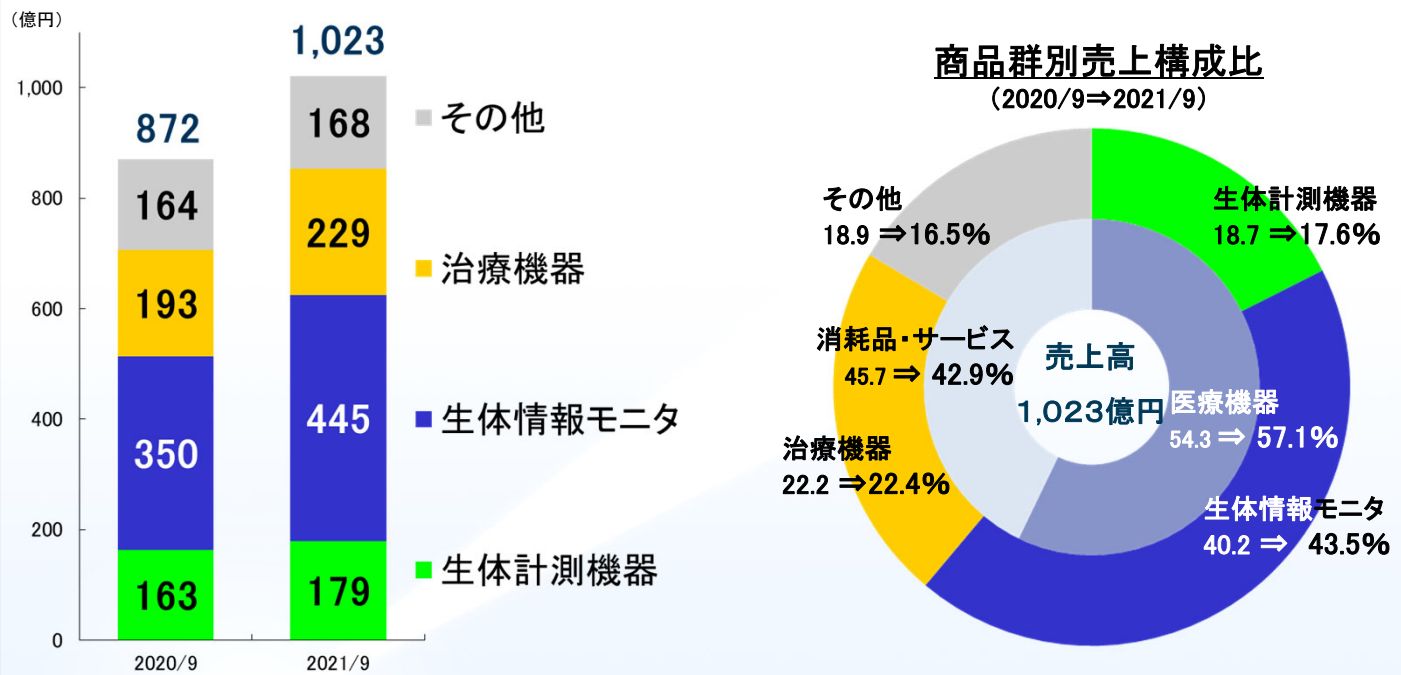
- 国内売上高は、89億円増の651億円となりました。
- 前年同期に低調だった一部製品や消耗品の需要が回復したほか、予算執行が延期・凍結となっていたITシステム商談が再開したことから、全ての市場で増収となりました。特に、官公立病院、私立病院市場では、政府予算を背景とした生体情報モニタ、人工呼吸器の整備もあり、大幅増収となりました。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、62億円増の371億円となりました。
- 米国における生体情報モニタの大口商談が売上をけん引しました。
全ての地域において、前年同期に低調だった一部製品の需要が回復したほか、感染が再拡大した中南米、インド、東南アジアにおいて生体情報モニタ等の需要が増加しました。
- 米州は35億円増の189億円、現地通貨ベースでは21%増加しました。
米国、中南米ともに二桁成長となり、中南米では、ブラジル、ペルー、チリが好調に推移しました。
- 欧州は6億円減の56億円、現地通貨ベースでは15%減少しました。
一部製品の需要は回復したものの、大幅増収となった前年同期の反動を補うには至りませんでした。
- アジア州他は32億円増の125億円、現地通貨ベースでは29%増加しました。
インド、タイ、マレーシアでの売上が倍増し、中国、ベトナムも好調に推移しました。

5) 商品群別売上高



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。
- 生体情報モニタ、治療機器、生体計測機器が二桁成長、その他商品群も堅調に推移しました。
- 医療機器の需要拡大により、消耗品・サービスの売上構成比率は、42.9%となりました。

5.1) 生体計測機器

	前第2四半期 累計(2020/9)	当第2四半期 累計(2021/9)	増減率(%)
脳 神 経 系 群	2,666	3,318	24.5
心 電 計 群	2,962	3,254	9.9
心臓カテーテル検査装置群	6,907	6,424	△ 7.0
その他(診断情報システム等)※	3,814	5,000	31.1
生 体 計 測 機 器 合 計	16,350	17,998	10.1
う ち 国 内 売 上 高	12,625	13,371	5.9
う ち 海 外 売 上 高	3,724	4,627	24.2

診断情報システム、心電計群が二桁成長。脳神経系群も好調に推移。心臓カテーテル検査装置群は現地仕入品の減収影響を除くと二桁成長。パルスオキシメータの需要も増加。

脳神経系群が米国、中国で回復、欧州で好調に推移。心電計群は前年同期並み。

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「生体計測機器」は、全体で10.1%増の179億円となりました。
- 国内は、5.9%増の133億円となりました。
コロナの影響で低調だった前年同期から需要が回復し、診断情報システム、心電計群が二桁成長、脳神経系群も好調に推移しました。心臓カテーテル検査装置群は、現地仕入品の減収の影響を除くと、二桁成長でした。
- 海外は、24.2%増の46億円となりました。
脳神経系群が米国、中国で回復したほか、欧州で好調に推移しました。一方で、心電計群は、前年同期並みにとどまりました。

5.2) 生体情報モニタ

	前第2四半期 累計(2020/9)	当第2四半期 累計(2021/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
生体情報モニタ合計	35,067	44,546	27.0	
うち国内売上高	17,276	23,806	37.8	送信機、ベッドサイドモニタが大幅増収。 臨床情報システム、センサ類など消耗品 も二桁成長。
うち海外売上高	17,790	20,740	16.6	米国、中南米、インド、東南アジアで大幅 増収。欧州、中国、中近東は前年同期の 需要急増の反動により減収。



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で27%増の445億円となりました。
- 国内は、37.8%増の238億円となりました。
減収だった前年同期からの需要回復に加え、感染症患者の急増に対応するため、送信機、ベッドサイドモニタが大幅増収となりました。臨床情報システム、センサ類など消耗品も、二桁成長となりました。
- 海外は、16.6%増の207億円となりました。
米国の大口商談が売上をけん引したほか、感染が再拡大した中南米、インド、東南アジアで大幅増収となりました。一方、欧州、中国、中近東は前年同期の需要急増の反動により減収となりました。
- コロナ関連の需要は、国内で40億円程度、海外で25億円程度あったと見ています。

5.3) 治療機器

	前第2四半期 累計(2020/9)	当第2四半期 累計(2021/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
医科向け除細動器	3,049	4,137	35.7	【国内】更新商談の受注により好調に推移。 【海外】アジア州他、欧州で大幅増収。
A E D	6,885	8,713	26.6	【国内】更新商談の受注もあり好調に推移。 【海外】全ての地域で需要が回復。
ペースメーカー・ICD	1,366	1,288	△ 5.7	
人工呼吸器	5,317	5,381	1.2	【国内】感染再拡大を受け、ハミルトン社製、 自社製ともに大幅増収。 【海外】前年同期の需要急増の反動により 減収。感染再拡大した中南米、インド、東南 アジアでは需要が増加。
その他	2,705	3,443	27.3	
治療機器合計	19,324	22,965	18.8	
うち国内売上高	12,277	14,321	16.6	
うち海外売上高	7,047	8,644	22.7	
(参考) AED販売台数	39,400台	54,300台	37.8	
うち国内販売台数	28,200台	29,600台	5.0	



除細動器
EMS-1052



AED
AED-M100



パルスチェッカー
PLS-1100



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



人工呼吸器
NKV-550



人工呼吸器
NKV-330



人工呼吸器
HAMILTON-C6

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 「治療機器」は、全体で18.8%増の229億円となりました。
国内は16.6%増の143億円、海外は22.7%増の86億円となりました。
- 医科向け除細動器は、国内が更新商談の受注により好調に推移したほか、海外もアジア州他、欧州で大幅増収となったことから、35.7%増の41億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で54,300台、売上は26.6%増の87億円となりました。国内は更新商談の受注もあり好調に推移したほか、海外も全ての地域で需要が回復しました。
- 人工呼吸器は、1.2%増の53億円となりました。国内は、感染再拡大を受け、ハミルトン社製、自社製ともに大幅増収となりました。海外は、前年同期の需要急増の反動により減収となりましたが、感染が再拡大した中南米、インド、東南アジアで需要が増加しました。
- コロナ関連の需要は、国内で人工呼吸器が20億円程度、海外で人工呼吸器が10億円程度、除細動器が5億円程度あったと見ています。

5.4) その他

	前第2四半期 累計(2020/9)	当第2四半期 累計(2021/9)	増減率(%)
検体検査装置	4,451	5,136	15.4
画像診断装置、 研究用機器他※	12,047	11,695	△ 2.9
その他合計	16,499	16,832	2.0
うち国内売上高	14,068	13,666	△ 2.9
うち海外売上高	2,430	3,166	30.2

(単位:百万円)

自社品販売の注力により、現地仕入品が減収。検体検査装置は好調に推移。

全ての地域で血球計数器・試薬の需要が回復。

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

NEW!

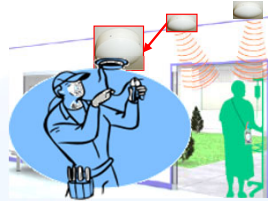


全自動血球計数器
MEK-9200

NEW!



全自動血球計数・
赤血球沈降速度測定装置
MEK-1305



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」におきましては、全体で2%増の168億円となりました。
- 国内は、2.9%減の136億円となりました。自社品販売の注力により、現地仕入品が減収となりましたが、検体検査装置は好調に推移しました。
- 海外は、30.2%増の31億円となりました。全ての地域で、血球計数器・試薬の需要が回復しました。

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2021/3	当第2四半期末 2021/9	増減額		前期末 2021/3	当第2四半期末 2021/9	増減額
流動資産	156,140	151,240	△ 4,899	流動負債	50,608	39,089	△ 11,518
たな卸資産	38,887	40,056	1,169	有利子負債	350	350	—
有形固定資産	20,193	19,558	△ 634	固定負債	3,436	3,520	84
無形固定資産	2,329	3,693	1,364	純資産	138,986	147,144	8,158
投資その他資産	14,366	15,261	894				
資産合計	193,030	189,754	△ 3,276	負債・純資産合計	193,030	189,754	△ 3,276
たな卸資産回転月数	4.8ヵ月	4.8ヵ月		自己資本比率	72.0%	77.5%	

- 総資産は32億円減少し、1,897億円となりました。
- 部品供給がひっ迫する中、部品在庫を積み増していることから、たな卸資産は400億円、回転月数は4.8ヵ月となりました。

7) 設備投資と研究開発費

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2020/9)	当第2四半期 累計(2021/9)	2021/3 前期実績	2022/3予想	
				期初	11月8日修正
設備投資額	1,472	814	3,524	4,100	4,100
減価償却費	1,496	1,561	3,236	3,800	3,800
研究開発費	3,069	2,658	6,357	6,600	6,300

●2022/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、IT投資、工場生産設備

- 設備投資は8億円、減価償却費は15億円、研究開発費は26億円となりました。
- 通期につきましては、設備投資は41億円、減価償却費は38億円、研究開発費は63億円を見込んでいます。開発部門では、部品供給のひっ迫に対応するため、代替品の調査や性能検証に工数が割かれていることから、研究開発費は期初の計画を下回る見通しです。

2

通期の業績見通し

1) 経営環境

ワクチン接種の進展により景気は回復基調にあるものの、
変異株の感染拡大、部品供給のひっ迫状況を注視

国内

新規感染は減少傾向、感染再拡大に
備え医療提供体制整備が継続

・新型コロナウイルス感染症緊急包括
支援交付金:2021年12月末まで

- ・新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築、集中治療体制の強化
- ・医療機能の分化・連携、地域包括ケアシステムの推進
- ・オンライン診療、遠隔ICUの推進
- ・地域医療介護総合確保基金 2021年度1,179億円(医療)

海外

欧米諸国

- ・医療のDXが加速
- ・活動制限が緩和され、景気は回復基調

中国

- ・医療機器の国産優遇の動きを注視
- ・景気減速の懸念

新興国

- ・一部地域で変異株の感染拡大、
景気回復遅れの懸念

- ワクチン接種の進展により景気は回復基調にあるものの、
変異株の感染拡大、部品供給のひっ迫状況を注視しています。
- 国内では、新規感染は減少傾向にありますが、政府予算を背景に
12月末までは医療提供体制の整備が続くと見えています。
- 海外では、欧米諸国を中心に、医療のデジタルトランスフォーメーションが加速するこ
とが予想されます。中国における国産優遇の動きを注視しているほか、
新興国では、一部地域で変異株の感染が拡大し、景気回復に遅れが生じる懸念
があります。

2) 通期の業績見通し

	2021/3 前期実績	2022/3予想 期初	8月4日修正	11月8日修正	増減率 (%)
売上高	199,727	185,500	190,500	201,000	0.6
国内売上高	137,274	128,000	130,500	136,500	△ 0.6
海外売上高	62,452	57,500	60,000	64,500	3.3
売上総利益 (売上総利益率)	102,233 51.2%	92,100 49.6%	95,700 50.2%	104,000 51.7%	1.7
営業利益 (営業利益率)	27,094 13.6%	16,000 8.6%	18,000 9.4%	25,500 12.7%	△ 5.9
経常利益	28,374	16,000	18,000	25,500	△ 10.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,243	11,000	12,000	17,500	△ 4.1
海外売上高比率	31.3%	31.0%	31.5%	32.1%	

(単位:百万円)

← 為替影響除く: △1%

【地域別海外売上高】

	2021/3 前期実績	2022/3予想 期初	8月4日修正	11月8日修正	増減率 (%)
米州	30,288	29,000	29,800	31,500	4.0
欧州	13,139	9,500	9,600	10,000	△ 23.9
アジア州他	19,024	19,000	20,600	23,000	20.9
海外計	62,452	57,500	60,000	64,500	3.3

平均レート

1米ドル	105.9円	105円	108円	110円
1ユーロ	123.1円	125円	128円	130円

(下期)

110円
130円

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

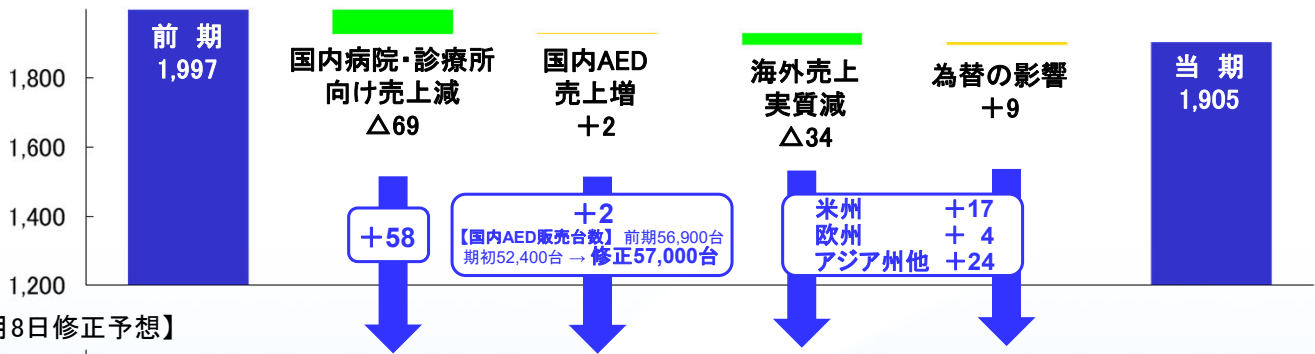
15

- 通期の業績見通しにつきましては、上期に、感染再拡大の地域において生体情報モニタ等の需要が増加したことから、上方修正しました。
- 連結売上高は前期比0.6%増の2,010億円、国内売上高は0.6%減の1,365億円、海外売上高は3.3%増の645億円、現地通貨ベースでは1%の減収を見込んでいます。
- 国内売上高は前回予想から60億円増加、海外売上高は45億円増加する見通しです。
- 営業利益につきましては、5.9%減の255億円を見込んでいます。前回予想からは、増収効果と粗利率の改善により、75億円増となる見込みです。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。
- 下期の為替の前提につきましては、ドルは110円、ユーロは130円としています。

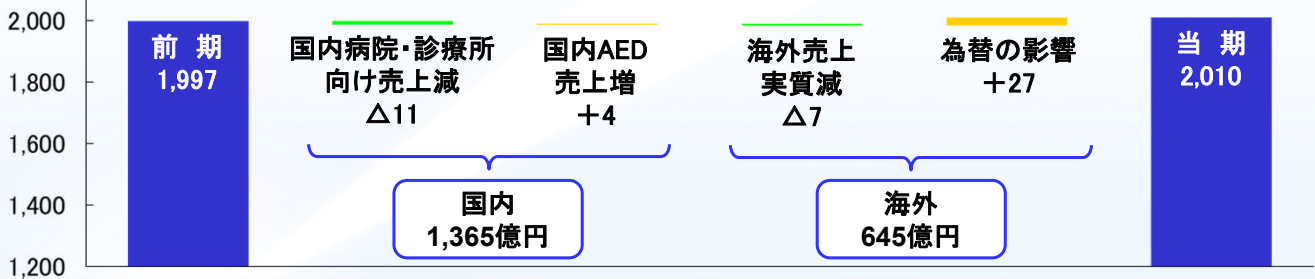
3) 売上見通しの要因分析

(単位: 億円)

【8月4日修正予想】



【11月8日修正予想】



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

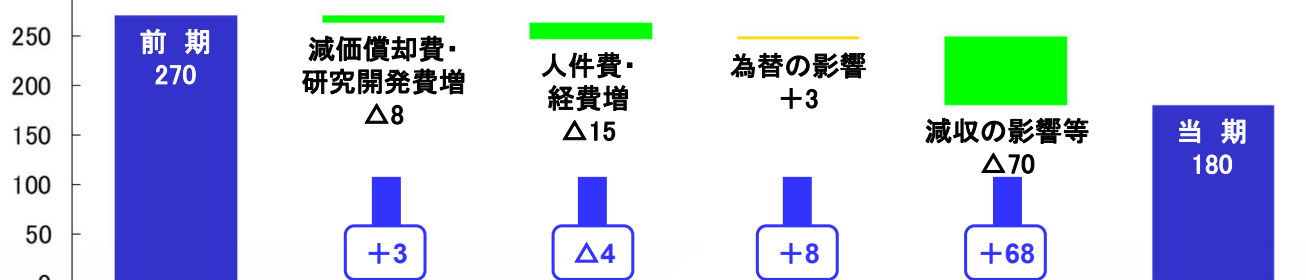
16

- 国内の病院・診療所向けは、上期のコロナ関連需要が想定を上回ったことから、11億円の減少に見直しました。AEDの通期売上は4億円の増加、販売台数は57,000台に見直しました。
- 海外売上高は、前回予想に対し、米州が17億円、欧州が4億円、アジア州他が24億円上振れる見込みです。前期からは、7億円の実質減、為替につきましては、27億円のプラス影響を見込んでいます。

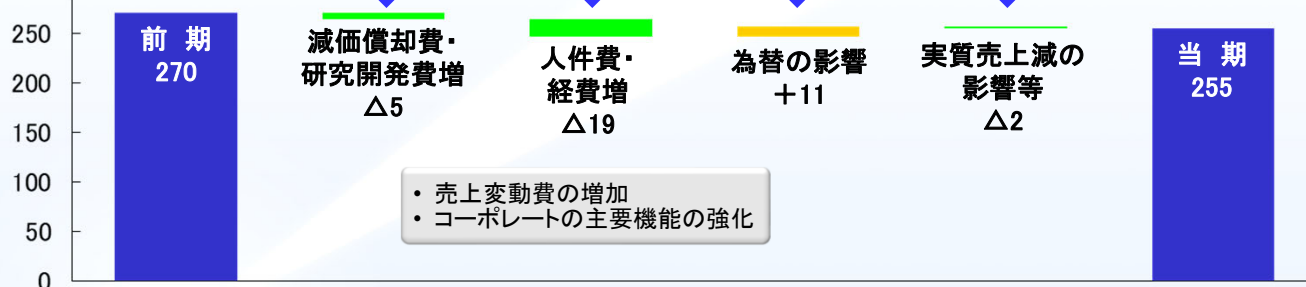
4) 営業利益見通しの要因分析

(単位: 億円)

【8月4日修正予想】



【11月8日修正予想】



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

17

- 研究開発費につきましては、部品供給ひっ迫への対応に工数がかかっているため、前回の想定を下回る見通しです。一方で、上期に大幅増益を達成したため、コーポレートの主要機能の強化に取り組みます。
- これにより、減価償却費・研究開発費は5億円増加、人件費・経費は19億円増加に見直しました。
- 為替は11億円のプラス影響、売上の実質減によるマイナス影響は2億円にとどまると見込んでいます。

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	2021/3	2022/3予想				増減率(%)
	前期実績	期初	8月4日修正	11月8日修正	構成比(%)	
生体計測機器	37,586	40,700	40,900	40,600	20.2	8.0
生体情報モニタ	78,818	70,900	74,300	80,750	40.2	2.5
治療機器	45,126	36,100	37,150	41,450	20.6	△ 8.1
その他	38,196	37,800	38,150	38,200	19.0	0.0
売上高合計	199,727	185,500	190,500	201,000	100.0	0.6

(単位:百万円)

(ご参考)

消耗品・サービス	85,890	87,200	89,700	91,400	45.5	6.4
----------	--------	--------	--------	--------	------	-----

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.7億円	1.4億円
ユーロ	0.7億円	0.3億円

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

18

- 商品群別の売上高見通しについては、上期業績を踏まえ修正しました。
生体情報モニタは、過去最高だった前期実績を上回る見通しです。
- 為替感応度はご覧のとおりです。

3

当社の経営戦略



人と医療の
より良い未来を創造する

おかげさまで日本光電は 創立70周年を迎えました



創業時の12名のメンバ



創業者 荻野 義夫



日本光電の歩み：
<https://www.nihonkohden.co.jp/70th/index.html>

これまでの歩みと私たちの思いを、
ぜひ動画でご覧ください。

NIHON KOHDEN

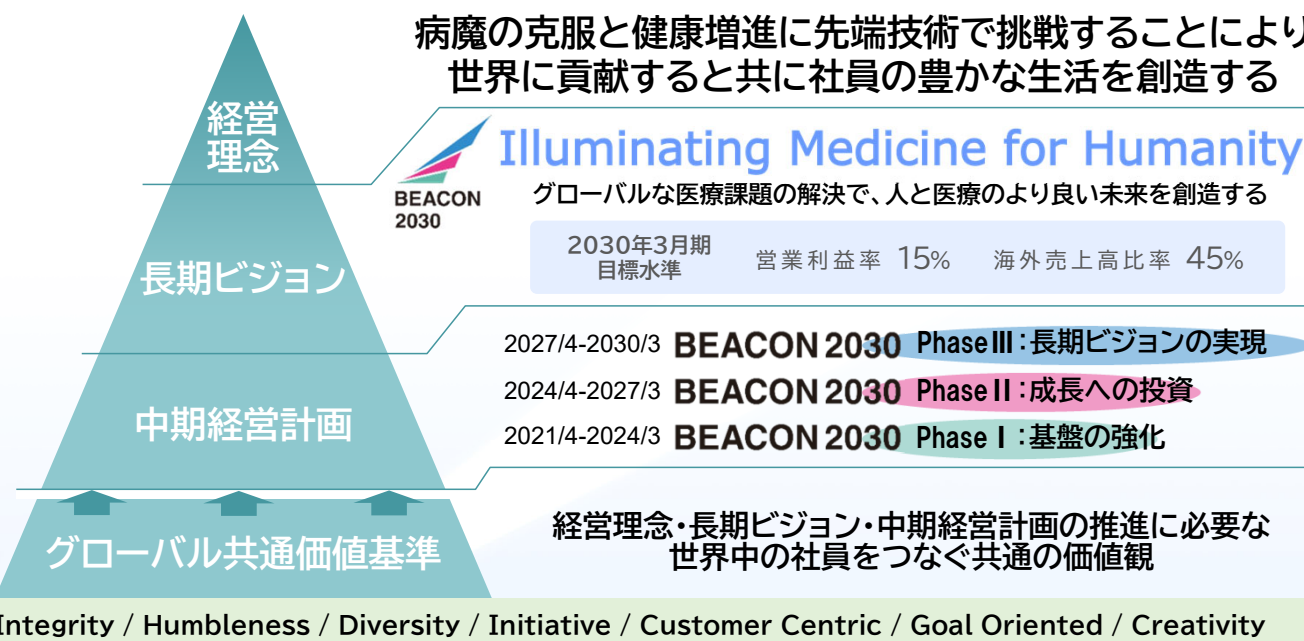
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

20

- 2021年8月、日本光電は、創立70周年を迎えることができました。
1951年に12名で創業して以来の日本光電の歩みを当社ウェブサイトでご紹介
していますので、是非ご覧ください。

長期ビジョンと中期経営計画

病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより
世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 4月からスタートした3カ年中期経営計画は、長期ビジョン「BEACON 2030」を実現するための第1フェーズです。持続的な成長を支えるための基盤を強化するとともに、2030年に向けて、新たな成長領域、事業モデルの探索に取り組みます。

中期経営計画 基本方針

事業と企業活動を通じてサステナビリティを推進

経営

コンプライアンスの徹底とグループガバナンスの一層の強化により、経営基盤を強化する。

事業

既存事業の収益性を改善することで得た原資により、戦略的な先行投資を実施し、新たな成長への種を蒔く。

組織

グローバルSCMの構築とコーポレートの主要機能の強化により、グローバル成長の礎を築く。

- 中期経営計画では、事業と企業活動を通じてサステナビリティを推進するために、コンプライアンスの徹底とグループガバナンスの一層の強化、既存事業の収益性改善と戦略的な先行投資、グローバル・サプライチェーン・マネジメントの構築とコーポレート主要機能の強化に取り組めます。

アドバイザリーボードを設置

(2021年7月)

- ✓ 社外の視点を反映するため設置
- ✓ 社外有識者4名で構成、サステナビリティ推進委員会に助言



東京大学
先端科学技術研究センター 研究顧問
小林 光氏
(環境面)



ESG/SDGs
コンサルタント
笹谷 秀光氏
(サステナビリティ全般)



神奈川県立保健福祉大学
ヘルスインノベーション研究科 教授
昌子 久仁子氏
(ガバナンス・事業面)



立教大学
経営学部 教授
高岡 美佳氏
(環境・社会面)

2022年3月期の主な取り組み

(環境)

- ✓ 脱炭素社会の実現に向けて
 - ・ CO₂排出量のSBT※¹設定を推進
 - ・ 環境配慮型製品の開発を推進

(品質)

- ✓ 品質向上に向けて、NPS※²を導入

(人権・人財)

- ✓ 従業員満足度調査を実施
- ✓ 人権デューデリジェンスに着手
- ✓ 役割型人事制度の導入

※¹ SBT (Science Based Target) : パリ協定が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標。
 ※² NPS (Net Promoter Score) : 製品・サービスへの愛着度を示す顧客ロイヤリティを測る指標。

- サステナビリティの推進においては、4月の推進体制の見直しに続き、7月にアドバイザリーボードを設置しました。ご覧の社外有識者4名の方にご協力をいただき、様々なアドバイスを取り入れていく予定です。
- 環境面では、CO₂排出量のSBT(サイエンス・ベースド・ターゲット)の設定に向けた取り組みを強化するほか、環境配慮型製品の開発を推進します。
- また、お客様のロイヤリティを測る指標であるNPS(ネット・プロモーター・スコア)を導入し、品質のさらなる向上に取り組めます。
- 人権・人財の分野では、従業員満足度調査や、人権デューデリジェンスの実施、役割型人事制度の導入を進めます。

コンプライアンスの徹底・ グループガバナンスの一層の強化

再発防止策の推進

上期

- ✓ コンプライアンス担当者の教育
- ✓ 内容充実・強化した事業所別勉強会の開催
- ✓ 人事評価項目にコンプライアンス追加
- ✓ 寄附金ウェブ申請方式の導入

下期

- ✓ 受注前プロセスのシステム統制
- ✓ ディーラー向けウェブシステムの設置
デューデリジェンス・法令遵守誓約・通報窓口
- ✓ ディーラー・全社員アンケート調査

グループガバナンスの強化

- ✓ 「グローバル経営管理ポリシー」の策定、海外子会社への浸透

経理 人事 法務 情報セキュリティ

- ✓ 国内販売における内部統制システムの強化



- 2021年1月に発生したコンプライアンス事案の再発防止策の進捗についてご説明します。
- 上期は、コンプライアンス担当者の教育を改めて実施し、支社支店の事業所別勉強会の内容充実・強化を図りました。また、全社員の人事評価項目にコンプライアンスを追加したほか、寄附金ウェブ申請方式を導入しました。
- 下期には、受注前プロセスのシステム統制の強化、ディーラーに対するデューデリジェンスの実施、さらに、ディーラーおよび全社員を対象に、コンプライアンスに関するアンケート調査を実施し、再発防止策の実効性を高めます。
- グループガバナンスの強化に向けては、グローバル経営管理ポリシーを導入し、海外子会社での実運用を開始しました。
- 国内の支社支店においては、先般ご報告のとおり、元社員による不正行為が判明したため、内部統制システムのより一層の強化に取り組めます。

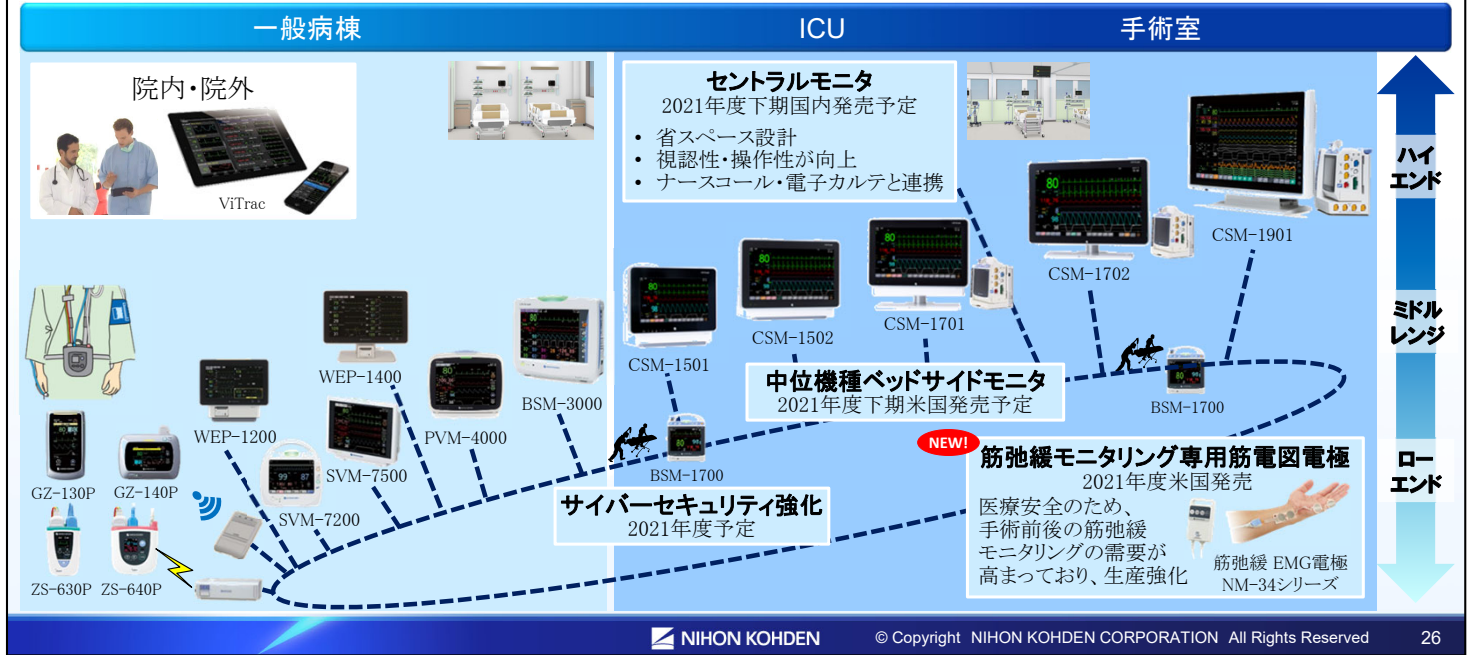
既存事業における収益性の改善



- 既存事業における収益性の改善に向けては、全事業共通の施策として、高い顧客価値の創造、生産性の向上、タイムリーな製品投入に取り組み、高収益体質の実現を目指します。
- デジタルヘルスの推進、サイバーセキュリティへの対応、共通設計プラットフォームの構築、ライフサイクルマネジメントの徹底、グローバルな開発・品質管理体制、規制対応力の強化は、全事業に共通する重要施策です。

生体情報モニタリング事業

✓ 製品ラインアップの拡充、機能強化による顧客価値提案の推進



- 生体情報モニタリング事業では、製品ラインアップの拡充、機能強化により、顧客価値提案を推進します。
- 新製品としては、国内でセントラルモニタを発売します。病棟での設置に適した省スペース設計を実現し、視認性や操作性などユーザビリティが向上しています。
- 米国では、中位機種ベッドサイドモニタの発売を予定しているほか、筋電図方式の筋弛緩モニタリング装置と専用電極を発売しました。医療安全のため、手術前後における筋弛緩モニタリングの需要が国内外で高まっており、生産体制の強化に取り組みます。

治療機器事業

人工呼吸器

✓ 感染拡大地域への製品供給に注力

重症患者さん向け



気管挿管型
人工呼吸器
NKV-550



Protective Control™

- 肺保護換気機能を訴求
- 臨床エビデンスの構築
- 認知度向上に向けた取り組みを強化

中等症患者さん向け



マスク型
人工呼吸器
NKV-330



- ハイフロー酸素療法による治療を啓発
- 生体情報モニタとの連携強化

医用テレメータ
WEP-1200

✓ ディスポーザブル消耗品の拡販



SpO₂プローブ



NPPV*
cap-ONEマスク

✓ 保守点検サービスの強化

- 定期交換部品とパッケージ化
- 教育プログラムの拡充
- 医療機器リモート監視システムとテスト連携



※ NPPV(Noninvasive Positive Pressure Ventilation): 非侵襲的陽圧換気。気管内挿管や気管切開を行わない人工呼吸管理。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 治療機器事業では、感染再拡大地域で需要が継続している人工呼吸器の供給に注力します。
- 重症患者さん向けには、気管挿管型人工呼吸器NKV-550の肺保護換気機能を訴求し、臨床エビデンスの構築と認知度向上に向けた取り組みを強化します。
- 中等症の患者さん向けには、ハイフロー酸素療法の有用性が確認され、需要が高まっていることから、マスク型人工呼吸器NKV-330の提案を強化します。
また、人工呼吸器と生体情報モニタとの連携を強化し、医療安全、業務効率の改善につながるソリューションの提供を目指します。
- コロナ禍で設置ベースが拡大したことから、ディスポーザブル消耗品の拡販に注力するとともに、保守点検サービスの強化に取り組めます。現在、国内においては、医療機器リモート監視システムとのテスト連携を開始しています。

検体検査機器事業

検体検査機器

✓新製品の拡販に注力

✓ドバイ試薬工場生産開始

2021年4月

NEW!
2020年度
海外発売



全自動血球計数器

MEK-1301



MEK-1302



全自動血球計数・
赤血球沈降速度※1測定装置
MEK-1305

CIRHEX
Technology



NEW!
2021年度
発売



全自動血球計数器
MEK-9200

DynaScatter Laser
+HEMABO

- 新たに、青色半導体レーザと核酸染色試薬を採用し網赤血球※2測定を実現
- 試薬管理システムで、種類・使用期限を自動確認し、検査品質を安定化



※1 ESR (Erythrocyte Sedimentation Rate) : 赤血球沈降速度。沈降速度が速いと結核等の感染症の可能性。主に新興国で測定されている項目。
※2 RET (Reticulocyte) : 網赤血球。骨髓から末梢血中に放出された新しい赤血球で、貧血等の症状がある際に測定されている項目。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

28

- 検体検査機器事業についてご説明します。
- 昨年度発売したMEK-1305は、赤血球が沈む速さであるESRを同時に測定できる世界初の血球計数器です。インドを中心に需要が拡大しており、新興国における結核などの感染症のスクリーニングに活用が期待されます。
- 当社初の網赤血球測定付き血球計数器MEK-9200を新たに投入しました。青色半導体レーザを搭載し、貧血等の診断で用いられる網赤血球の測定を実現しました。専用試薬と組み合わせることにより、検査品質と精度の一層の向上に貢献します。

グローバル事業における戦略強化

日本：医療の質向上、医療課題の解決に向けたソリューション提案を強化

✓ 顧客価値提案の強化

医療安全 診療実績 業務効率 につながる
提案営業力の強化、サービスの拡充



医療安全 業務効率 生体情報モニタ
のアラームレポートを提供

アラームデータを
収集・分析し、
数値・グラフで
運用改善を提案



医療安全 人工呼吸器の保守点検
サービスの強化



予防保守・修理保証



2年間定額点検



人工呼吸器
NKV-330

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

29

- 日本では、引き続き、顧客価値提案を軸とした変革を推進します。営業とサービスが一体となり、医療安全、診療実績、業務効率につながるソリューション提案力の一層の向上を図ります。
- 生体情報モニタのアラームレポートでは、病棟ごとのアラームデータを収集・分析し、数値やグラフを用いて、運用改善を提案します。実際に、多くの施設から、医療安全や業務効率の改善につながると好評をいただいています。
- 設置ベースが拡大した人工呼吸器については、保守点検サービスの提案・実施を強化し、医療安全の向上に貢献します。

米国：子会社6社の統合と融合による米国事業のさらなる成長

✓ 製品ラインアップの拡充



生体情報モニタ

中位機種ベッドサイドモニタ
CSM-1500/1700シリーズ
2021年度下期発売予定

救急蘇生機器

エアウェイスコープ
NK AWS-S200
2020年度発売

次世代自動心臓
マッサージ装置
2021年度下期発売予定

✓ 大規模ネットワークに対応したモニタリングソリューションの提案を強化

War Room



✓ 消耗品・サービス事業の拡大



SpO₂プローブ



NEW!

筋弛緩 EMG電極 NM-34シリーズ
2021年度発売

NEW!

NK NETWORK CARE



2021年度発売

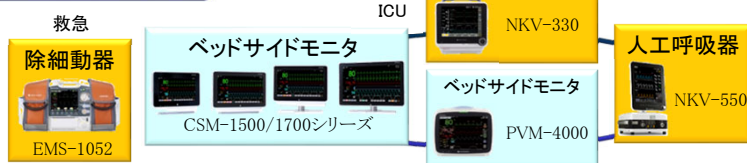
院内ネットワークの
セキュリティ上の脅威を
24時間モニタリングし、
異常検出時にサポート

- 米国では、子会社6社の機能面の統合と融合により、事業基盤を強化し、さらなる成長を目指します。
- 現在発売準備を進めている中位機種ベッドサイドモニタの投入により、サイバーセキュリティ対策を強化し、大規模ネットワークに対応したモニタリングソリューションの提案力を強化します。
- 設置ベースの拡大に伴い、消耗品・サービスなど、リカーリングビジネスを強化します。消耗品では、SpO₂プローブやCO₂センサに加え、新たに筋弛緩モニタリング専用の筋電図電極をラインアップに追加しました。
サービス面では、NK NETWORK CAREの提供を開始しました。近年、医療機関へのサイバー攻撃が問題となっていますが、院内ネットワークのセキュリティ上の脅威を24時間モニタリングし、異常検出時に迅速なサポートを提供することで、医療安全の向上に貢献します。

新興国：日本・米国製、上海製の新製品の提案を強化

日本・米国製品

ハイエンド市場



上海製品

ミドル&ローエンド市場



※1 CRP (C-Reactive Protein) : C反応性蛋白。

中国・中南米 PAD※2市場拡大

2017年～ 中国、コロンビア、2020年～チリ

- ✓ 公共施設へのAED設置が拡大
- ✓ AEDの普及啓発、講習会に注力



ブラジルトップ病院で 生体情報モニター商談受注

- ✓ サンパウロ近郊で
直販・サービスを強化
- ✓ アインシュタイン病院
のICU商談を受注



※2 PAD (Public Access Defibrillation) : 一般市民によるAEDを用いた除細動。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

31

- 新興国では、ハイエンド市場には日本・米国製品、ミドル・ローエンド市場には、上海製品の販売展開を強化します。
- 中国市場向けの現地開発品として、検体自動搬送システムを投入したほか、ベッドサイドモニター、血球計数器の現地生産を開始しました。
- 中国や中南米では、一般市民によるAED使用に関する法整備が進み、公共施設へのAED設置が拡大しています。AEDの普及啓発活動に取り組み、事業拡大に注力します。
- ブラジルでは、サンパウロ近郊での直販・サービス体制の強化が奏功し、南米トップランキングであるアインシュタイン病院のICU商談を受注しました。今後の波及効果に期待しています。

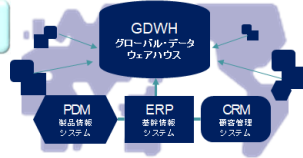
グローバルSCMの構築・ コーポレート主要機能の強化

グローバルSCMの構築

✓グローバル情報基盤を整備

商談機会損失の低減

在庫の適正管理



✓部品供給のひっ迫への対応

部品の事前発注

複社購買



コーポレート主要機能の強化

✓社内ITシステムの サイバーセキュリティ強化



✓製品のライフサイクル全体で、 最新の法規制への対応を強化

環境規制対応

市販後マーケティング調査

- 組織の視点では、グローバル・サプライチェーン・マネジメント体制の構築とコーポレートの主要機能の強化により、グローバルな成長を支える基盤の構築を推進します。
- グローバルな情報基盤の整備により、特に、海外における機会損失を低減するとともに、在庫の適正管理に取り組めます。
- 部品供給のひっ迫に対しては、事前発注や複社購買により部品在庫の確保を優先します。
- 6月に欧州子会社へサイバー攻撃を受けたことを踏まえ、社内ITシステムのサイバーセキュリティ強化に取り組めます。
- 製品のライフサイクル全体を通して、最新の法規制に対応するための体制を強化します。特に、環境規制への対応や市販後マーケティング調査の強化に注力します。

経営目標値(2024年3月期)

売上高	1,970億円
国内売上高	1,340億円
海外売上高 (海外売上高比率)	630億円 (32.0%)
消耗品・サービス売上高比率	48%以上
売上総利益率	50%以上
営業利益 (営業利益率)	200億円 (10.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	138億円
ROE	10%

地域別海外売上高

米州	320億円
欧州	100億円
アジア州他	210億円

3カ年計画

研究開発投資	200億円程度
設備投資	140億円程度

想定レート: 1米ドル=102円、1ユーロ=124円

- 2024年3月期の経営目標値は、ご覧のとおりです。
- 2021年度の業績予想は、国内、海外ともに、コロナ関連の需要が想定を上回ったことから、中期経営計画の経営目標値を上回る見通しですが、現時点で、目標値の変更はございません。今後は、特需の反動を最小限に抑えつつ、粗利率50%以上、営業利益率10%以上を定常的に確保できる企業体質への変革に引き続き取り組めます。

利益配分の基本方針

利益配分の優先順位は、①将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得

将来の企業成長
に向けた投資

- ・ デジタルヘルスソリューションを新規事業と位置付けて積極投資
- ・ コーポレートDX推進、グローバルSCM構築のための設備投資

研究
開発



設備
投資



M&A
提携



人財
育成



配当

長期安定配当を
継続

目標:連結配当性向
30%以上

自己株式取得

今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に検討

21/3期 年間配当金: 55円(特別配当20円を含む) (配当性向: 25.7%)
自己株式取得: 14.9億円 (総還元性向: 33.9%)

22/3期 年間配当金: 39円
(予想) (配当性向: 18.9%)

- 利益の配分につきましては、将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期に亘って安定的な配当を継続することを基本方針としています。優先順位は、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成などの、将来の企業成長に向けた投資、配当、自己株式取得としています。
配当については、連結配当性向30%以上を目標としています。
- 当期の年間配当金は39円、配当性向は18.9%の予想です。株主還元につきましては、通期の決算が確定した段階で検討する予定です。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003